

校長会報

令和元年度 第3号
発行所
島根県小学校長会
事務局
松江市母衣町 55
県教育会館内
TEL (0852) 27-8530
FAX (0852) 67-3360



隠岐國学習センター長 豊田庄吾

「魅力化アレルギー反応」とどう関わるか

二〇〇九年に東京から海士町に移住し、島前高校魅力化プロジェクトの立ち上げに関わるようになって一〇年が経ちました。地域社会と共に、魅力ある学校・教育とは何か、考え、対話し、実践していく教育の魅力化。ここ数年、島前高校での魅力化の取り組みに加え、全国各地域・学校の教育の魅力化が推進していくことに関わらせていただく中で、少しずつ先生方の中にある「教育の魅力化を阻むアレルギー反応のようなもの」を感じるようになりました。

一つ目は「学びのあり方の転換」に対するアレルギー反応。
「学びのあり方の転換」に対するアレルギー反応とは、新学習指導要領に

伴い学びのあり方が変わっていくこと（古い学力観から新しい学力観への転換していくこと）への恐れです。

二つ目は「地域文脈」へのアレルギー反応。

これは子どもにとっての教育だけでなく地域にとって良い教育とは何か、考えることへのアレルギー反応です。そもそも教育は子どもが将来自立するために進むものであって、地域がより良くなるため、地域が自立するために進んでいるのではないのではないのか、という考え方です。

三つ目は多忙化へのアレルギー反応。

地域との連携、新学習指導要領への対応などなど、ただでさえ忙しいのに、これ以上新たに何かをやれと言われて

も、いつそれをやるのか。一方で「働き方改革だ」「残業はするな」と言われる。「一体、どっちやねん」と。(笑)
四つ目は異文化、異質なものを受け入れることへのアレルギー反応。
特に、自分たちを肯定してくれない人たち、よくわからない人たちへの恐怖、恐れなどから来るアレルギー反応。

これから小学校含め学校教育がより良くなっていくために、こうしたアレルギー反応とどう向き合い、関わっていくべきなのでしょう？

まず第一に、アレルギー反応を持った先生方や、そのアレルギー反応自体を肯定することが重要だと思えます。「世の中は変わった。求められる資質能力も変わった。でも、学校教育はどうだ？何も変わってないじゃないか！」といった論調からのスタートでは先生方の心のシャッターが閉まってしまう、より良い教育を考えることになりません。

ダニエル・キム教授が提唱した成功の循環モデルにあるように、まずは「関係性の質」を高めることから始めることが肝要だと思えます。

加えて、学力観の転換といった、あり方やシステムが大きく変化する（パラダイムシフトが起きる）ときに、「古い何か」から「全く別の新しい何か」へ変わるといって捉え方よりも、「古い何か」から「古いものの周りに新しい部分」が加わって新しい何かが形成される」といった捉え方の方が、古いものを大事にしてきた方々の理解賛同を得やすいのではないかと考えています。

地域文脈へのアレルギーに関しては、子どもたちのための教育をベースに置きながら（ここは絶対に外さずに）、その上で「地域のために必要な教育とはどんな教育なのか」という問いについて探究し続けていくことは、教師にも求められていくことなのだと思います。個人的には「学びの真正性」社会関係資本（つながり・関わり）「まざる」「ひらく」あたりヒントがあるのではないかと考えています。

最後に、「引き算の重要性」です。教育改革と働き方改革（業務改善）は車の両輪のようなもので、まずは日常業務や今やっていることが、本当に必要なか問いながら、必要なくなってきたものや優先順位の低いものについては、勇気をもって止めてみる（引き算する）し、時間と余白を作って新たな挑戦をすることが必要なのではないのでしょうか？

第六十一回島根県小学校長会教育研究大会邑智大会を終えて

邑智大会実行委員長 松川 成治
(邑南町立矢上小学校)

令和元年十月四日(金)、第六十一回島根県小学校長会教育研究大会を県内各地から多数の会員の皆様にご参加いただき、邑智郡で開催いたしました。直前の台風接近により、隠岐郡の会員様がやむを得ず欠席されましたことは誠に残念でしたが、各学校や児童に被害のない中で開催できましたことをありがたく感じております。

本大会を開催するにあたり、大会の趣旨を踏まえながら、会員の皆様に少しでも充実感や満足感を得ていただけるよう、邑智郡小学校長会の皆で検討を行い、準備を進めてまいりました。また、邑智郡川本町・美郷町・邑南町及び各町教育委員会をはじめ、多くの関係者の皆様には、多大なるご支援・ご協力をいただき、大変感謝いたしております。ありがとうございます。以下、研究大会の概要について紹介いたします。

◇開会式・理事会報告

開会式では、来賓の皆様のご臨席のもと、県小学校長会 奥村忠孝会長、浜田教育事務所長 上部証司様、川本町長 三宅実様にご挨拶いただきました。続いて、県小学校長会 中村次郎事務局長より、県理事会の報告がありました。

◇分科会

第一分科会【リーダー育成】

「校長会の組織を生かして進めるミドルリーダーの育成」合同研修会と校内での取組を通して」

出雲市立多伎小学校 西村孝司 校長
急速に進む世代交代や管理職の大量退職など、今後必ずやってくる本県の課題に対し、早期からのミドルリーダー育成を目指した実践に取り組みました。二〇一八年にはミドルリーダーと校長の両者が合同研修会や意識調査を実施。二〇一九年には四月に各校でミドルリーダーを指名し、その育成に各校長が取り組まれました。二年間の具体的取組の成果として、校長自身のミドルリーダー育成の意識を高めることができたこと、ミドルリーダー育成を意識することで各職員の育成にもつながったことなどがあげられました。課題としては、育成状況の共有や研修会のありかた、全職員のキャリアに応じた人材育成などがあげられました。

第二分科会【自立と共生】

「一人一人の自立を目指した特別支援教育の推進」個のニーズに応じた支援体制の充実に向けて」

奥出雲町立八川小学校 三島啓介 校長
特別な支援を必要とする子どもの増

加や、子どもの自己肯定感の低さを課題ととらえ、学校を挙げた支援体制の充実に取り組まれました。校長会としては、郡内の特別支援学級在籍児と保護者の会の活動への参加や、情報交換や研修会の実施によって学校間のつながりを強められました。学校では、幼小管理職会の開催や、教員の保育体験による幼児園との連携や、教室環境、人的環境、授業のユニバーサルデザイン化に力を入れて取り組まれました。この取組が、全ての子どもを全職員で支援する意識の高まりや、学力、自己表現の力の向上につながりました。

第三分科会【危機対応】

「危機対応の視点からの学校運営及び校務改善の工夫Ⅱ」多忙感の解消を通して」

浜田市立雲雀丘小学校 齋藤祥文 校長
教職員の多忙感による疲弊を教育現場における大きな危機ととらえ、その解消に向けて取り組まれました。勤務実態調査の結果を受けての取組などを通して、時間外勤務は減少しましたが、教職員自身の働き方に対する意識改革の必要性が新たな課題とされました。そこで、①教職員の働き方に係る研修、②正確な勤務時間の把握、③教職員の意識改革へとつなげるための調査及び各校の実態に基づく取組などが行われました。成果としては、学校の実情に基づいた改革の方向性を示すことができたこと、また教職員が自らの思いで改革を進めていこうとする気持ちや意欲を引き出すことができたことなどがあげられました。

◇講演

「伝統芸能と学校教育」小笠原流田植え囃子の伝承活動を事例に」

山陰民俗学会理事 多田房明 氏
講演に先立ち、地元邑南町日貫の桜井神楽団による大元神楽が上演されました。それを受けて、邑智郡の神楽や田植え囃子について紹介されました。続いて田植え囃子がいつから始まったのか、またどこで盛んに行われているか、そして大田市高山地域に伝わる小笠原流田植え囃子がどのように行われ、伝承されているかについて、事例を取り上げながら解説していただきました。さらに、そうした田植え囃子が学校教育の中に取り入れられている事例を通して、伝統芸能を地域の方から学ぶことで、ふるさとの素晴らしさへの理解が深まること、また子どもたちが参加することで行事が活性化するとともに自己有用感が高まり、ふるさとに住みたいと思う人が増えていること、こうした伝統芸能は地域力を高める「ふるさとの宝物」であることについて語られ、教育現場に大きな示唆を与えてくださいました。



最後に、奥村会長をはじめ、県小学校長会事務局の皆様にご支援をいただき、研究大会を運営できましたことに、心よりお礼申し上げます。

第六十六回 中国地区小学校長会 教育研究大会鳥取大会に参加して

糸 賀 昭 雄

(松江市立佐太小学校)



令和元年十一月八日(金)、鳥取市で開催された標記大会に参加しました。大会主題『新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進』のもと、記念講演や十三の分科会等が行われました。

全体会では、永見文彦大会会長が、「新学習指導要領の円滑実施と、喫緊の課題となつている働き方改革推進をセットと捉え、教師と子どもが向き合う時間が一層確保され、質の高い教育が提供されるなど、その環境を整えていくことも校長の責務である。」と述べられました。

記念講演では、重要無形文化財「白磁」保持者の前田昭博氏の講演「陶芸と私」を拝聴しました。「ここ(ふるさと)だからできる、今だからできる、私だからできるものを作ることを念頭に置いている。」との言葉があり、自身に置き換えて「本校だからできる、今だからできる、自分だからできる

る学校経営」について見つめ直すことができました。

分科会では、第八分科会「リーダー育成と校長の役割」に参加しました。本県に限らず、他県においても大量退職、大量採用に伴い、これまでの知識や技能を若手に継承していく体制づくりや、複雑化・多様化する教育課題に対応する教職員の資質能力の向上は喫緊の課題であり、提案発表をされた校長先生お一人ではなく、それぞれ中学校や地域、校長会等外部と連携して実践しておられることが印象的でした。

山口県周南市校長会では、①教職員同士②中学校③地域④関係機関(市教委等)との連携を軸にして、鳥取県米子市校長会では、①ミドルリーダーに市内の若手教員対象の学級経営や学習指導の研修会の指導者を経験させる②学校規模ごとの職員育成の共通した取組をそれぞれ実践しておられ、人材育成に視点を置いた意図的・計画的な組織づくりや、達成感の高揚を図る支援のあり方、適材適所で仕事を任せることの重要性を学びました。

初めての参加でしたが、他県の先生方とそれぞれの実情や課題について意見交換できたことはとても有意義であり、今後の学校経営に生かしていきたいと意を強くする一日となりました。

第七十一回 全国連合小学校長会 研究協議会秋田大会に参加して

山 碕 延 男

(飯南町立頓原小学校)



令和元年十月十七日・十八日、「ふるさとを愛し 志をもって自ら新しい社会を切り拓く子どもを育てる学校経営の推進」という副主題を掲げ、第六十五回大会からの大会主題の理念を一層推進すべく表記大会が開催されました。

文部科学省大臣官房審議官の矢野和彦氏の講話を聴いた後、午後からの分科会では、「評価・改善」部会に参加しました。学校教育の充実のための評価・改善の推進について、学校評価(岡山県)と人事評価(山形県)の実践発表をもとに協議しました。学校評価は地域とともに学校改善を継続的に

推進していくため、人事評価は個々を適正に評価し資質能力の向上を図るため、という視点の再確認は重要でした。また、



分科会

思考ツールというワークシートを使って協議内容を視覚化したことで、グループ協議が充実しました。

学校評価は、

取組課題を四つに絞って十二校が取り組んだことを発表されました。教職員の意識の変容が肝要ですが、それをどのように測るか考えさせられました。人事評価は、学級経営案と合体させ、学校評価ともリンクさせた人事評価シート「教育活動計画書」の作成に対して、完成までのご努力に頭が下がる思いで聞きました。

二日目のシンポジウム「自ら新しい社会を切り拓いていく子どもたちへ」は、「ふるさと」「志」「未来創造」をキーワードにしたトークで、登壇者の鋭く柔軟な思考とその実行力・実現力に感心しました。

最新の情報や参加者の多様な価値観に触れ、「今、教育に期待されていることは何か」「校長としてすべきことは何か」「教育の不易と流行とは」を考える有意義な二日間でした。新しい社会を切り拓く子どもを育てるには、まず自身が前に進む力を持たねばと感じた二日間でもありました。



思考ツール

三三 朝礼講話 三三

やってみてみえるものを感じる

別所 久美子

(雲南市立鍋山小学校)



今日から二学期の始まりです。

みなさん、やる気ス
イツチをオンにして元
気よく登校してきましたね。

二学期は一番長い学期で八十一日あります。たくさん
の活動がありますよ。楽しみですね。

さて、学校は、何のためにあるのでしょうか。(幾つかの反応)

そうですね。がんばって勉強して自分の力を高めるために学校はあります。そこで二学期は、「やってみよう」ということをみなさんに提案します。そしてみなさんに期待します。

学校の中には、自分の力を高めるためのチャンスがたくさんあります。「やってみよう」と考えるチャンスがたくさんあるのです。考えてもらいましょう。

例えば、

「今年は運動会での応援リーダーをやってみよう。」

「バスケット大会に向けてフリースローの練習を毎日やってみよう。」

「授業中にがんばって発表しよう。」

いかがですか。自分の周りにある、「やってみよう」のチャンスが思い浮かびましたか。

「やってみる」ことで、これまでに気がつかなかったことが見えてくるかもしれません。

「やってみる」ことで、これまでに思いつかなかった考え方ができるかもしれません。

やらないと何も変わらず、やってみると自分を変えることができるのです。「自分でやる！やってみる！」と決めて実行することが大事です。

「やってみよう」というものが思い浮かんだかな。

なかには、できるかなと心配な気持ちをもった子どももいるよね。

大丈夫。自分の周りを見てもらい。友だちがたくさんいるでしょう。友だちといっしょに学べるのが学校で学ぶ意味です。

友だちの力を借りて、友だちといっしょに自分の力を高めていくようにすればいいのです。一人ではできません。さあ。みなさん。

「やってみよう」

そして、二学期の終わりには、やってみてどんな力がついたかお互いに紹介し合うことができますね。担任の先生とも「やってみよう」についても話してくださいね。

みんなの力で・・・

大石 学

(益田市立豊川小学校)



これは、何のボールかわかりますか？(ラグビーボールを見せる)昨年九月から十月にかけて、日本で初めてラグビーのワールドカップというとても大きな大会が行われました。テレビで見た人も

いると思います。日本のチームもがんばり、予選に勝って、決勝トーナメントに出ました。試合ごとに日本でもラグビーの人氣が高まり、昼休みにラグビーをして遊んでいた人もいましたね。先生はラグビーをしたことがありません。詳しいルールもわかりません。今回、ラグビーをテレビで見ている、見方にパスをするときは、自分より前の選手に出してはいけないことが分かりました。みんなは気づいていましたか。ボールを持っている選手は、相手

をよけながら前へと進んでいくけれども、相手からタックルを受けて転ぶと、前へ進むことができません。そこで、味方の選手にボールをあげ、ボールをもらった選手が、またゴールエリアをめざしていきます。一人で

ボールをゴールに運ぶこともできませんが、それはとても難しいことです。一人では難しいし、疲れてしまうから、みんな協力してボールをつなぎながらゴールをめざしていくのです。ゴールすることをトライと言います。トライする人は一人かもしれないけれど、得点が入るとみんなが喜ぶことからよく分かると思います。ラグビーは、選手全員が助け合いながら得点をしていかないと、絶対に勝てないスポーツです。学校での生活も同じだと思います。全校のみんなが一つの目標に向かってお互いに助け合いながら取り組んでいくと、とてもよい学校になります。まさにラグビーと同じです。友達の誰かが困っていたら、助けてあげる。この気持ちが大切です。

今回の日本チームは「ワンチーム」と呼ばれました。ワンチームとは、選手も監督もみんな一つ一つのチームであるということなんです。学校もワンチームでありたいと先生は思っています。みんなと先生達、そしてうちの人や地域の人と一緒になって助け合っていくことで、より学校がよくなります。これまで、難しいな、こんなことできないよと思っていたことが、みんなの力を合わせるとできるのです。これからも、みんなが助け合って、よりよい学校にしていきましょう。

理事会部会報告

総務部

総務部では、島根県教育委員会との意見交換会の計画、来年度事業計画並びに予算案についての検討、及び二〇二二年全連小島根大会への準備状況を中心に協議を行いました。

○県教委との意見交換会について

各市郡理事へのアンケート調査結果をもとに、「教職員を取り巻く現状について(児童の実態・家庭環境、長時間勤務・メンタルヘルス・働き方改革)」と「学校図書館活用教育について」の二つの話題について意見交換を行いました。山根毅常任理事(松江・恵曇小)と鳥居正嗣常任理事(浜田・原井小)のお二人には、貴重な情報提供をしていただきました。

○来年度事業並びに予算について

理事会のテレビ会議での開催や予算の削減等について協議を行いました。現時点では設備や消費税増税の関係で来年度も今年度通りとしました。

○二〇二二年全連小島根大会について

二〇二二年十月十三日(十四日開催、メイン会場、分科会会場をくびきメッセ、ホテル一畑等とする案を了承し、松江市小学校長会と連係し開催準備を進める確認をしました。

(総務部 中村次郎)

対策部

対策部では、今年度、主として以下の対策活動を行いました。

○「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」と呼称した取組

「全連小対策連絡協議会」「中国地区連絡協議会(中国地区小学校長会理事会)」への参加

○全連小によるアンケート調査への回答

今年度も、「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」は、子どもたちの教育環境・条件をより良いものとするために、また、子どもたちの教育を支える教職員の勤務条件等の改善を図っていくために、県教育委員会や県人事委員会等に要望活動を行いました。学校現場の実態について理解していただくよう努めながら、特に講師の確保についても話題にしました。市町村、校種、そして、学校規模等の実態のバランスを考慮した、全県的な視野に立つ要望内容でありました。

対策部では、全国連合小学校長会や市町村校長会との連動性及び、国や県の動向を踏まえながら、今後も島根の教育の一層の充実を図る要望活動が進められるよう、「県小中学校長会教育条件改善対策委員会」の方向性等について検討を重ねていきたいと考えています。

(対策部委員長 下脇由記子)

調査研究部

今年度は、以下のような確認・報告・協議を行いました。

第一回(六月二十一日)

- ・今年度の調査研究活動・全連小調査協力依頼について
- ・県小学校長会の研修会開催に関する申し合わせ事項等の確認
- ・第61回島根県小学校長会教育研究大会(邑智大会)、第62回同(安来大会)の説明
- ・今後の県小学校長会研究大会等の割当について

第二回(八月二十一日)

- ・中国地区小学校長会理事会・連絡協議会 調査研究部関係報告
- ・県小学校長会の研修会開催に関する申し合わせ事項等の協議
- ・全連小調査協力について
- ・第61回島根県小学校長会教育研究大会(邑智大会)、第62回同(安来大会)、第63回同(飯石大会)の説明・協議

第三回(二月二十一日)

- ・研究大会(邑智大会)の振り返り
- ・県小学校長会の研修会開催に関する申し合わせ事項等の協議
- ・第62回島根県小学校長会教育研究大会(安来大会)の準備状況説明
- ・今年度の活動の反省と来年度以降の見通しについての協議

(調査研究部委員長 原 一夫)

広報部

今年度は、主として次のような広報活動を行いました。

○「校長会報」

編集方針を立て、会員の声を生かしながら、年三回発行しました。
・本会の活動の状況を掲載し、資料性・記録性を大切にした編集とする。
・全連小の動きや県教育監の言葉、ミドルリーダー育成の取組のコーナーを設け、会員の研修・共通理解の場とする。

・役員紹介、新校長随想、学校紹介、コラム等の欄を設け、会員相互の親睦と研修に資するようにする。

○「校長樹林」

今年度は、松江支部に編集の担当をお願いし、二月発刊となりました。六月に編集方針が示され、それに基づいて着々と原稿依頼や校正が行われました。十二月には臨時広報部会を開催し、広報部会として校正作業を行い、皆さんのお手元に届けるに至りました。

○諸活動(全連小関係を含む)

「小学校時報」等の原稿依頼に対して、会員の方々に快く応じていただき、島根の教育の一端を発表することができました。

この一年、ご協力いただいた多くの皆さんに、心より感謝いたします。

(広報部委員長 島山直文)

事務局だより

事務局長 中村 次郎

(松江市立母衣小学校)

一 第六十一回 島根県小学校長会 教育研究大会 邑智大会

十月四日(金)、川本町の「悠邑ふるさと会館」と「すこやかセンター」を会場に、県内から約百八十名の会員が参加して開催されました。

第一分科会では、出雲市立多伎小学校の西村孝司校長先生に「校長会の組織を生かして進めるミドルリーダーの育成〜合同研修会と校内での取組を通して〜」をテーマに、第二分科会では、奥出雲町立八川小学校の三島啓介校長先生に「一人一人の自立を目指した特別支援教育の推進〜個のニーズに応じた支援体制の充実に向けて〜」をテーマに、第三分科会では、浜田市立雲雀丘小学校の齋藤祥文校長先生に「危機対応の視点からの学校運営及び校務改善の工夫〜多忙感の解消を通して〜」をテーマに、全会員が今後の学校経営に活かすことのできる貴重な実践をご発表いただきました。ありがとうございました。

また、午後からは山陰民俗学会理事

の多田房明様より「伝統芸能と学校教育〜小笠原流田植え囃子の伝承活動を事例に〜」を演題に、様々なエピソードを交えながら熱く語っていただきました。

講演に先立っては、邑南町日貫の桜井神楽団の皆さんによる神楽「塵輪」の披露があり、伝統芸能の素晴らしさを堪能させていただきました。

邑智郡校長会の皆様には、昨年度より準備を進めていただき、大変有意義な研究大会を開催していただきましたこと、心よりお礼申しあげます。

二 第六十六回 中国地区小学校長会 教育研究大会 鳥取大会

十一月八日(金)、鳥取市で開催されました。中国五県からは約六百名、本県からは約百十名が参加して研修を深めました。

分科会では本県を代表して、第十分科会「危機対応」で浜田市立雲雀丘小学校の齋藤祥文校長先生に、第十二分科会「自立と共生」で奥出雲町立八川小学校の三島啓介校長先生にご発表いただきました。邑智大会に続いての発表となり、本当にお世話になりました。

三 第七十一回 全国連合小学校長会 研究協議会 秋田大会

十月十七日(木)・十八日(金)、秋田市において開催されました。全国か

ら約二千四百名、本県からは二十二名が参加しました。

今年度は本県からの発表はありませんでしたが、十三の分科会に分かれて研修を深めました。

初日の全体会における文部科学省講話では、「これからの初等中等教育の在り方について総合的に検討を進めている」として、「新学習指導要領の実施」と「学校における働き方改革」の二点について多くの時間をかけて説明されました。情報活用能力の育成に必要なICT環境の地域格差や公立学校教員採用の状況から教職の魅力向上が喫緊の課題であるとの指摘もありました。

なお、本研究協議会に先だつて開催された「全連小第二三三回理事会」には、奥村忠孝会長と原一夫副会長が、本県を代表して出席しました。

四 第四回理事会(お知らせ)

令和二年二月二十一日(金)、サンラポーむらくもにおいて開催します。今年度の活動の反省と次年度の活動計画等を検討します。

五 令和二年度

第一回理事評議員会(お知らせ)

令和二年四月二十二日(水)、サンラポーむらくもにて、新年度の組織、事業計画等について協議する予定にしています。

平成三十一・令和元年度 会務報告

4	11	事務局会①
5	19	事務局会②
6	25	第一回理事評議員会
7	29	事務局会③
8	21	第二回理事会
9	23	事務局会④
10	26	第一回常任理事会
11	23	中国地区理事会(鳥取)
12	26	第三回理事会、 県教委との意見交換会
13	22	第六十一回島根県小学校長 会教育研究大会(邑智)
14	17	全連小秋田大会(18)
15	2	第六十六回中国地区小学校 長会教育研究大会(鳥取)
16	6	事務局会⑤
17	10	広報部会
18	7	事務局会⑥
19	21	中国地区理事会(鳥取)
20	30	第四回理事会 監査会

編集後記

本年度も残り少なくなり、次年度からの小学校学習指導要領の全面实施をひかえ、会員の皆様にはご多忙な毎日をお過ごしのことと存じます。本年度、最後の会報をお届けします。ご多用の中、ご協力、ご執筆いただきました皆様、心からお礼申し上げます。(松本)